

ATVアクセサリ

ATV Accessory

守屋輝年雄 Kineo Moriya 鈴木 隆 Takashi Suzuki

● (株) ワイ・イー・シー 技術部

1 はじめに

従来、国内でのATVの使用実態は、レジャーやレースを中心とした趣味性の高いものがほとんどであった。これに対して欧米では、ATVに補機（以下、アクセサリという）類を装着し、実用車として使われている割合がかなり高く、ATVアクセサリメーカーやその商品アイテムも豊富である。

そこで国内のATVユーティリティ分野でのアクセサリ類の必要性などのアンケート調査を実施したところ、潜在的需要の可能性はあるものの国内での市場規模予測はあまり大きくないという結果であった。この市場規模予測結果よりアクセサリ類を輸入することを前提にし、海外の補機メーカーや商品アイテムの発掘と調査を開始した。その結果、米国で実績のあるサイクル・カントリー社からサンプルを取り寄せテストを実施後、市場導入を開始した。



図2 YFB250/FW

飛ばす	融かす		移動する	
除雪機	融雪機	ロード ヒーティング	排土板 ATV	パワー ショベル
		ヒーティング		

図3 雪処理商品群

2 商品の狙い

ATVの持つ高い機動性と経済性の特徴を生かすユーティリティ分野を主ターゲットとして、図1に示すように、ターゲットユーザとアクセサリの働きを検討した結果、図の6つのアクセサリが選定された。また適合車種は図2に示す、ヤマハYFB250/FWとした。

特に排土板およびVバー・チェーンを装着したATVのスピーディな除雪機能に着目し、1996年冬期にテスト販売を行った結果、広いスペースでの排雪および短時間での排雪に威力を発揮し、好評であった。そこで、1997年より本格的に導入を開始したが、図3に示す雪処理商品群の中でも、排土板付きATVの手軽な除雪作業性に今後大きな期待が持たれる。

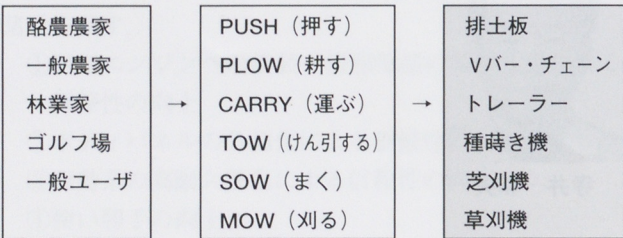


図1 ATVアクセサリ

3 商品概要

① 排土板（スノープラウ）（図4）

軽量の砂や土の移動から刈り雑草の除去作業、そして除雪作業まで、マルチな用途に対応する。運転席左手元に装着するハンドルリフトで、機動力の高い作業性を生み出す。



図4 排土板（スノープラウ）

②Vバー・チェーン (図5)

タイヤのトレッド面を覆うクロスチェーン部に、優れたグリップを生むV型バーを組み込んでいる。ATVの高いけん引力を一層引き出す。

③トレーラー (図6)

酪農業から庭園整備まで、幅広いシーンで汎用性を持つATV用トレーラーである。レバー操作で底床は34度にスラント可能である。脱着式リアゲートや丸形状底床との相乗効果で、滑らかな積み出し性を実現した。

④種蒔き機 (図7)

45L容量ホップと専用モータファンの滑らかな回転が、種まきや粒状肥料の散布作業の効率向上を実現した。付属のカバーシールドの使用により、振動などによるホップからの種の飛び出しを防ぐ。

⑤芝刈機 (図8)

3枚刈刃で1.2m幅の刈り幅を実現した。芝高は25~100mmに7段階に調整が可能である。フロントマウントによりATVのタイヤに圧される前に美しく芝を手入れできる。また、セル付き空冷4サイクルエンジン(10.5馬力)を搭載し、制御パネルは運転席の向かいに設置し、容易な操作性を実現した。

⑥草刈機 (図9)

空冷4サイクルエンジン(12.5馬力)を搭載し、負荷の大きな草刈り業務に最適である。1枚刈刃で刈り幅は1.2m、刈高は25~165mmまで無段階調整が可能である。クイックピン付きヒッチ(連結装置)により、連結位置をATV後方の左右に自由に付けられ、フェンス際や木の下など、これまで難しかった場所での草刈りが可能になった。

4 おわりに

ATVアクセサリは、YEC用品事業の一環としてATVのユーティリティ分野を狙った、ヤマハ発動機各販売会社への仕入れ商品である。国内市場規模としてはまだ非常に小さなものではあるが、北海道を中心とした排土板付ATVのデモ車キャンペーンやテスト販売での評価も高く、今後の需要拡大が期待できると思われる。さらにそれがATV本体への拡販につながれば幸いである。最後にATVアクセサリの市場導入に際し、多大な御支援を頂いた関係各位に、本誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



図5 Vバー・チェーン



図6 トレーラー



図7 種蒔き機



図8 芝刈機



図9 草刈機